



井上 道義の 未来だった今より

NHK大河ドラマはNHK交響楽団が幕開けのテーマ音楽を受け持っている。その指揮を時々頼まれるが、今回の「平清盛」も担当させてもらった。

世の中の全ての事象と同じで大河ドラマも良いときも悪いときもあり、内容が良くても視聴率が悪い、逆に悪くても視聴率が良いこともある。画面が奇麗だとか汚いとか、知事や市長が話題にするのは、実は良いことの部類だ。ニュースや噂は昔から悪いもの、不幸なものの方が、強い伝播力をもっているからだ。そういえば以前「篤姫」で素晴らしいテーマ音楽を書いた吉俣良さんの時も、今回の吉松隆さんの時も、録音の時に作曲家やオーケストラとテンポの事だけで一触即発の緊張感があった記憶がある。すんなり何事も無く録音が進んだ時の結果が良いとは限らないのが芸術の面白いところだ。

最近、いや僕が若かった頃の40年前

♪ 平清盛

でもそうだが、若い指揮者はオーケストラの団員とうまくすんなり仲良く、集団の一部として音楽をやる傾向が強くなっている。世界的と言われている人でもだ。しかし、指揮者なんていなくて音楽はできるわけで、本当の芸術的な指揮者がやるべきは、その日の演奏に他と入れ替えることが考えられないほどの刻印を押すことだ。

だから、たかが大河ドラマのテーマ音楽の録音と捉えるか、それが1年間のドラマ内容にさえ影響を与える重要な音楽と捉えるかは、人が誰もがとるべき現在への態度と同じで「その場に命をかけるか？」ではないか。清盛は泥まみれになってなんのためにどう生きたのだろうか？ 今の日本は道という道は裸足で歩いて痛くないアスファルトばかりだ。

(オーケストラ・アンサンブル金沢)
音楽監督

地球は、中心から、核、マントル、地殻という各層からなる。中でも地殻はいわば地球の薄皮で、厚さは陸で平均約30メートル、海で平均約6メートルある。月面にまで足跡をのしただが、普段暮らしている自分たち足もとのマントルは未踏で、その直接的観察は悲願なのだ。

そこで、最新の科学技術を結集し、この地殻の薄い海洋底にマントルまでの穴を開けようというのが「モホール計画」だ。この計画は私たち金大グループが牽引しており、日本が誇るマントル探査船「ちきゅう」が使



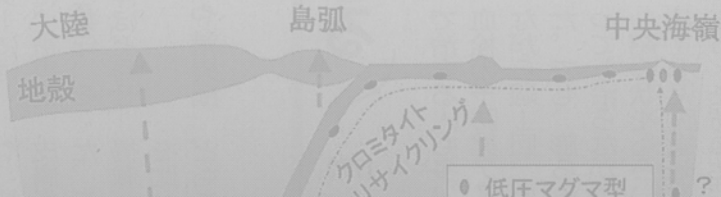
21

マントル探査へ情熱

理工研究域自然システム学系 荒井章司教授

クロミタイトとマントルダイナミクス: 仮説

クロミタイトとマントルダイナミクス



われる予定となっている。「モホール計画の実施に向けて、私たちは様々な準備をしながら、私たちが底のこ

いしかわスクエア